

＜教育利用＞ ③ 5年生保健体育 生成AIによる過去のけがデータ分析と予防策の効果予測

＜授業の概要＞

本時は、児童が学校生活や外遊びにおける事故やけがの原因を理解し、その予防策を協働的に話し合うことで、安全意識を高めることを目的としている。生成AI（ChatGPT）を活用して過去のけがのデータ分析や予防策の効果予測を行い、児童の思考力と安全意識を育む。

けがの種類	けがした場所
打ばく 292件	校庭 369件
すり傷 288件	教室 178件
ねんざ 31件	体育館 102件
切り傷 18件	廊下階段 31件
骨折 2件	その他 188件
その他 246件	

事前に学校内で発生したけがに関する記録を生成AI（ChatGPT）に読み込ませ、けがが起こりやすい場所やその種類を分析した資料を児童に提示することで、けがの原因を多角的に考え、予防策に対する理解を深められるようにする。



「児童が提案したけがの予防策を実行した場合、どのくらいけがが減少しますか。」というプロンプトを打ち込むことで、学校のけがの防止についてより深く理解し、問題解決に向けてさらに多くの視点で考えられるようになる。

＜活用の効果＞

児童には生成AIを活用して過去のけがのデータを数値化したものを提示し、視覚的効果を高めながら、予防策の効果を様々な視点から思考させることができた。また、生成AIによる予測結果を参考にすることで、児童の課題解決に向けた意欲が著しく向上し、安全意識を深めることができた。